共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

連合会総会報告

■発行：グリーンコープ
　生活協同組合連合会理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
　福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
　博多大博通ビルディング3階
　TEL092（481）7923
　FAX092（481）7876
https://www.greencoop.or.jp/

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C014687

2022年6月15日
グリーンコープ
生活協同組合連合会
第三十期
通常総会

安心・安全な商品の開発や環境を守る取り組みを進めました

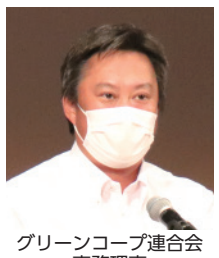
2022年6月15日、グリーンコープ生活協同組合連合会の第三十期通常総会が開催され、すべての議題について賛成多数で承認・可決されました。共同体定時社員総会と同様、コロナ対策を取りながら3年ぶりに会場に集い、オンラインでも結ぶハイブリッド開催となりました。

2021年度の活動報告の中から、新しい取り組みについて、また、2022年度の活動方針(要旨)について、報告します。

第一号議案　2021年度活動報告承認の件

2021年度、グリーンコープ連合会は、グリーンコープの運動と事業を推進する業務、グリーンコープ連合会の業務の強化と合理化に取り組みました。

環境に配慮した商品開発、包材の変更をしました



グリーンコープ連合会
専務理事
西村 大輔さん

組合員の利用率が高い🐽餃子(徳用)420gや5品の冷凍生餃子に使用していたプラスチックトレーをリサイクルトレーに変更し、リサイクルトレーを使用する餃子を新たに開発しました。これにより年間15t以上のプラスチックごみを削減したことになります。

また、フィルム包材商品を中心に、バイオマス原料や再生ペット(PET)への包材の切り替えを進めています。今後も、「最大に環境に配慮する配合割合はどのくらいか」と追求した包材に切り替えていきます。組合員が一目でわかるように包材デザインを統一して環境配慮成分の含有率を表示すると共に、カタログにも案内していきます。

ミールキットの開発を行いました

ミールキット商品の開発については、組合員からの希望が多かった商品を優先して行いました。プラスチックごみを減らすために過剰包装にせず、組合員へは野菜と肉などの材料をそれぞれに仕分けして配達することにしました。

また、既存の商品と組み合わせてミールキットのように利用できる商品として、野菜炒め用や鍋物用のミックス野菜も開発しました。

産直野菜の欠配の解消に取り組みました

産直野菜の欠配の解消に向けて、欠配の多い11品目の野菜について九州以外の寒冷地でも確保することに取り組みました。欠配解消の成果もあり、青果全体の供給額は前年を超えることができました。

被害を受けた産直りんご産地を支援しました

産直りんご産地では、遅霜の被害により収穫数の激減や実の変形などが心配されたため、組合員に支援カンパを呼びかけるチラシを配布して被害状況を伝えるとともに、特別出荷基準を設けてキズ果や変形果も届くことを率直に伝えました。組合員からは多くの支援金が寄せられ、早期予約りんごの利用も伸ばすことができました。

ITを活用・開発し、組合員へのサービスを改善しました

店舗での組合員証による新しいキャッシュレスシステム「GCペイ」を開発し、グリーンコープアプリに搭載しました。

また、商品利用代金の引き落とし用の振替口座の新規登録や変更登録をGCwebやグリーンコープアプリからできるサービスを開始しました。今後取り扱い金融機関を追加していく予定です。

物流センターの仕分けシステムを更新し企画商品を増やしました

物流センターの業務を効率化する仕組みを構築するため、新たな仕分け機器への更新が全センターで完了しました。これにより労働環境の改善、仕分けミスの削減とともに、企画商品数を増やすこともできました。

2022年度の課題

ハム・ソーセージ類をリニューアル

ハム・ソーセージ類は前回の見直しから約10年経過しており、組合員の嗜好も変化しています。グリーンコープの商品基準はそのままに、内容の見直しに取り組みます。

遺伝子組換え表示制度改正への対応

2023年春に予定されている遺伝子組換え表示制度の改正施行やゲノム編集も含めたグリーンコープのカタログ表示に向けて、商品管理や変更の準備を進めます。

ネオニコチノイド系農薬を排除

グリーンコープの農作物の栽培において、環境ホルモンであるネオニコチノイド系農薬の「不使用」を基準としていきます。組合員がネオニコチノイド系農薬を使っていないグリーンコープの農産物を利用できるようにして、世の中でネオニコチノイド系農薬が使われないようにしていく運動を展開します。

マイクロプラスチック肥料を排除

マイクロプラスチック肥料(樹脂被覆肥料)は、粒の殻がプラスチック原料でできており、自然分解されないまま川や海に流れて環境や生態系へ影響を及ぼすことが懸念されています。排除を目指す取り組みを開始します。

第三号議案　2022年度活動方針決定の件

一、グリーンコープの主人公である組合員がグリーンコープ運動を展開し、仲間を増やし、利用を高めます。

二、2027カーボンニュートラル実現に向けて取り組みます。

三、生命（いのち）を守り育むグリーンコープの食べものを食べて、私たちの安心・安全な食べものを守り、より良く育てていきます。

四、「グリーンコープ商品の確かさを確認する活動」を重要なグリーンコープの組合員活動とし、メーカー・生産者との交流によって、商品管理の強化と商品の利用拡大をすすめていきます。

五、グリーンコープ商品を見直し、改善と開発をすすめていきます。

六、組合員の伸びに呼応する生産や製造の実態を再構築し、組合員、メーカー・生産者、ワーカーズ（労働協同組合）、職員とともに利用の拡大をすすめていきます。

七、グリーンコープらしいこだわりある特別企画商品（雑貨）を増やしていきます。

八、グリーンコープ連合会と単協の経営を一層強化します。

九、四つの共生の願いに基づく取り組みをすすめます。

十、各委員会の方針

(一)商品検討委員会

(1)新規提案の商品について、検討決定します。

(2)新規の農畜水産物の産地や新規のメーカーを視察します。

(3)日常的な商品管理等に関する報告事項について確認します。

(二)商品おすすめ委員会

(1)生産者やメーカーとのつながりを深め、単協での利用普及に活かします。

㋐単協で行なわれた産地やメーカーの視察・交流などの取り組みを共有します。

㋑オールグリーンコープで行なう産地やメーカーの視察・交流に取り組みます。

(2)グリーンコープの「産直」や「商品」について知ることで、そのよさを実感し、オールグリーンコープで利用普及の取り組みをすすめます。

㋐単協での利用普及の取り組みを共有します。

㋑学習を通して利用普及につなぎます。

(3)組合員の声を活かした広報を通して利用普及をすすめます。

2022年6月15日
グリーンコープ
生活協同組合連合会
第三十期
通常総会
第一号議案2021年度活動報告

２０２１年度のグリーンコープ連合会 商品検討委員会と商品おすすめ委員会は、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染防止のため、ほとんどの委員会をオンラインで開催しました。
２０２１年度の各委員会の活動を報告します。

連合会 商品検討委員会

一つひとつの商品提案に真摯に向き合い丁寧に検討を重ね 組合員に愛される商品開発の検討をしました

一人の母親としての感性を大切に検討しました

新規商品の検討では、市場の動向も意識しながら、組合員が利用したくなるような商品をイメージして検討をすすめました。原料に関してはｎｏｎ-ＧＭＯ（遺伝子組み換えでない）や国産を追求し、不要な添加物を使用しないなど、一人の母親としての感性で検討しました。包材のデザインについても文字・色・キャッチコピーなどについて細かく意見交換をし、ＳＤＧｓの観点からシンプルな包材にすることを目指しました。委員が心から納得した商品を生み出すことができたことで、各生協での利用普及へつなげることができました。

各生協で開発した商品についても、豊かな検討の様子を委員会で共有し、オールグリーンコープの商品として利用普及に努めました。

ミールキットの開発では、開発する４品について野菜や肉類のカットサイズ、たれとのバランスなどを試食して丁寧に検討しました。環境負荷がかからないようトレーは使用せず、袋に入れる仕様としました。各生協から要望の多かった商品について、今後も検討していきます。



ぬチョコレートクリームの情宣チラシ。初回受注数は19,306個に達しました

ぬチョコレートクリームは、製造終了となった既存品がとても人気のある商品だったため、委員会一丸となり渾身の想いで検討を積み上げました。メーカーへは既存品に近づけた原料配合を依頼し、何度も改善要望を届けました。経過の中で組合員の想いが伝わり、メーカーでは９回も試作品に挑んでいただきました。完成後はサンプル展開を行い、組合員とワーカーズ、職員が一丸となって利用普及をすすめることができました。

新規の産地と交流しました

ぬ産直音別の蕗（ふき）の生産者である「音別ふき蕗団」の皆さんとオンラインで交流会を行いました。「音別ふき蕗団」は、生活困窮者支援の取り組みを中心に、若い方から年配の方までが生き生きと暮らせるビジョンを掲げ、蕗で地域を豊かにするという素晴らしい理念を持った組織です。ドローンで撮影された北海道の豊かな自然や蕗の圃場なども見せていただきました。顔と顔が見える関係で交流する大切さを、改めて実感する場となりました。


北海道「音別ふき蕗団」の皆さん

連合会 商品おすすめ委員会

生産者やメーカーとの交流や学習会を通して「産直」や「商品」の良さを知り利用普及に取り組みました

産地やメーカーとの視察・交流を行い信頼関係を実感しました

２０２１年度もオンラインを活用して産直産地やメーカーとの視察・交流を活発に行いました。直接会って交流することはできませんでしたが、例年よりも多くの委員が参加できました。生産者やメーカーと会話して商品への理解を深め、強い信頼関係を実感しました。

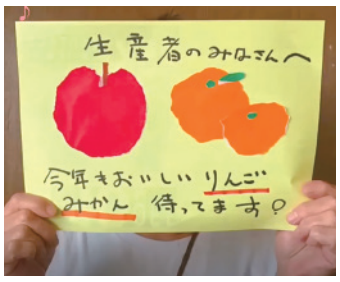
生産者との視察・交流では、圃場や農場をライブ中継するなど工夫していただくことで、臨場感ある視察となりました。また、温暖化が作柄に大きく影響していること、減農薬栽培への思いやご苦労などをお聞きし、コロナ禍においても顔の見える関係を続けてきました。

メーカーとの視察・交流では、製造ラインの画像や動画など見てわかりやすい資料を様々な形で用意していただき、実際に訪問しても立ち入ることができない工場内部の詳細な様子なども見ることができ、より理解を深めることができました。メーカーの思いやこだわりを広く組合員に伝えたいと感じました。

学習会を通して商品への知識と思いを深めました

グリーンコープの様々な商品や産直についての学習会をオンラインで開催しました。

「産直」「商品」学習会は2日間でのべ５３０人の参加があり、多くの組合員がグリーンコープの食べものの良さをより一層理解することができました。米の生産奨励金が産直関係を続けるために活かされていることや、若い後継者が育っていることを知り、顔の見える関係を実感しました。



りんご博士・みかん博士養成講座で、参加した委員から生産者へメッセージを届けました

りんご博士・みかん博士養成講座では、産直のりんごやみかんが1年をかけて減農薬で大事に育てられていることを知りました。早期予約をすることで生産者は計画的に出荷することができ、生産の励みにもつながっていることが分かりました。

ぬ産直びん牛乳については2回の学習会を開催しました。工場視察は、専用の工場で機械と人の目で丁寧に管理・製造されていることを知ることができました。また、料理研究家の坂本佳奈さんによる講演会を開催し、ぬ産直びん牛乳をだしとして料理に使うなど様々な調理方法を知ることができ、新しい目線での利用普及につなげました。



産直びん牛乳を使った様々な料理を知ることができました

グリーンコープ
生活協同組合連合会
第三十期 通常総会
２０２１年度決算報告
（貸借対照表・損益計算書）は
ホームページに
掲載しています

貸借対照表は
こちらから

損益計算書は
こちらから

連合会第三十期通常総会 議案採決の結果

代議員数218人	賛成	反対	保留
第一号議案 2021年度活動報告承認の件	多数	1	1
第二号議案 2021年度決算報告承認の件	多数	0	1
第三号議案 2022年度活動方針決定の件	多数	8	3
第四号議案 2022年度事業計画･予算決定の件	多数	8	2
第五号議案 役員補充選任の件	多数	0	1
第六号議案 役員報酬決定の件	多数	0	1
第七号議案 議案決議効力発生の件	多数	0	1

連合会第三十期通常総会で選出された役員

理事全体区
池野　健治　共済連合会専務理事
竹田　さやか　連合会商品検討委員長
高橋　雅子　連合会組織委員長（共同体）

理事地域区
中本　千帆子　（島根）理事長
前津宗　八州恵　ひろしま理事長
松本　あいら　やまぐち理事長
安部　百々　ふくおか地域理事長
中村　晶子　ふくおか地域理事長
大坪　亜野子　ふくおか地域理事長
小川　幸恵　さが理事長
小林　香織　くまもと理事長
松尾　真由子　みやざき副理事長

監事
前田　いずみ　おおさか
牧田　聰子　さが
和田　和明　かごしま

退任した役員

退任理事
熊野　千恵美　連合会･ひろしま
吉田　由佳　（島根）
貫里　恵　ひろしま
佐々木　春代　やまぐち
三原　幸子　ふくおか
木室　裕子　ふくおか
若松　由香　ふくおか
柳川　晶子　さが
髙濱　千夏　くまもと
馬渕　早苗　くまもと
伊達　紗由里　商品検討委員会
金子　誉支江　組織委員会
小笠原　尚隆　共済連合会

退任監事
河元　圭子　ひろしま
溝口　真理　ふくおか
萩原　潤　おおいた

生協名は一部省略しました